

令和5年度茨城県芸術祭映像コンクール作品発表会

12:30 開場
 13:00 開会 主催者あいさつ
 受賞者紹介
 審査講評
 13:30 作品上映（右面参照）
 15:20 終了

～ 審査評 ～

今年の映像コンクールには、19作品が寄せられました。去年は、24本だけでなく少し寂しい気もします。新型コロナが5類に移行され、イベントなどが再開、賑わいを取り戻したとはいえ、コロナの感染者も目立ち、そんな状況も映像コンクールの応募に影響しているのでしょうか。

今年は、最優秀にあたる「特賞」を決めませんでした。「優賞」の3作品が、いずれも力作で、「特賞」を選ぶのが難しかったからです。

吉澤富夫さんの「さようなら淡水魚館」。ことし、37年の歴史に幕を閉じた常陸大宮市にある淡水魚館の最後の日を紹介しています。絶滅危惧種のオオサンショウウオやイトウなどが鑑賞できる、貴重な淡水魚専門の水族館であることを知りました。魚好きにはたまらないかもしれません。水害の説明のところは映像をモノクロに変換する工夫がありました。閉館は残念ですが、すべての魚が他の施設に引き取られるという説明にホッとしました。

西野忠さんの作品「水戸偕楽園 陰の世界から陽の世界へ」は、偕楽園の陰と陽の世界を、四季おりおりの風景をまじえ美しい映像で紹介しています。それぞれの映像は構図も秀逸でした。ゆったりとした映像編集も偕楽園の魅力を十分に伝えていました。情報をもう少し整理しても良かったと感じました。

真弓喜幸さんの「悲しみを乗り越えて！ひたち海浜公園物語」は、海浜公園の歴史を紐解いている作品です。戦後、米軍の射撃場として使用され、死傷者が出たり、大きな騒音に悩まされた住民の苦悩の時代がありました。そうした中で住民が立ち上がり、長い年月をかけて米軍から返還されることになった歴史。年間200万人が訪れるという今では、そんなことを知る人は少ないと思います。過去の事実を知ってほしいと、当時の写真などを積み重ね制作されています。「苦しみや悲しみの中から今日の繁栄があることを私たちは忘れてはなりません」というラストコメントが、真弓さんの伝えたいことを物語っていました。

奨励賞の「小学生参加の鳥追い祭り」は、小学校の閉校で最後となった小正月の行事、「元気にお米づくり」は、残念ながら主人公が亡くなるという不幸がありましたが、収穫を迎えることができたという作品。「爺の決心」は耕作放棄地にしたくないという強い思いが伝わり、いずれも地域の人たちとの関りが大事なことを教えてくれました。

茨城新聞社賞は、「鉄道開通150年を迎えた今」です。鉄道開通150年の年に、念願のリニア中央新幹線の試乗会に当選、これをきっかけに、鉄道の発展の歴史や課題をまとめています。茨城新聞社賞にふさわしいと選ばせていただきました。

入選の「秋の訪れ」と「ことしの夏」は、気象がらみの作品で、いずれも進む温暖化に警鐘を鳴らしています。今年は、応募本数は少なかったものの、制作者の思いが伝わる作品が多くありました。5分でも3分でもいいのです。10分にこだわらず作品作りを楽しんで頂き、来年も、たくさんの作品をお待ちしています。

(岡崎 好美)

《審査員》 島田 裕之 (茨城大学教授)
 岡崎 好美 (元NHK水戸放送局)
 関 一敬 (ケーブルテレビJWAY)

～ 上映作品 ～

各作品の説明は、応募票に記載された作者のコメントから抜粋しました。

入選		秋の訪れ 広瀬 清志(取手市) コロナの影響で遠出もできず、近所の寺で紅葉狩りを楽しみました。葉の色が変化する不思議さと、平安時代から伝わる紅葉狩りの文化と歴史を描き、環境保全の大事さを伝えます。
入選		ことしの夏 軽部 承一(取手市) 地球温暖化で、季節の移り変わりが少しずつ変化してきました。特にことしの夏は、世界的にも暑く、身近な所を気が付くままに撮影し、まとめてみました。
茨城新聞社賞		鉄道開業150年目を迎えた今 西川 洋二(守谷市) 明治5年から始まった我が国の鉄道は、日本経済の発展に大きく貢献してきました。また60年程前からリニア新幹線の開発も進む今、赤字路線、物流確保など様々な課題もあります。
奨励賞		爺の決心 加藤 忠道(城里町) 高齢と不注意で腰椎骨折。茶園の栽培が不可能となった。治療に努めながらこの茶園をどうするか熟慮の末、自力解決を決断、作業を進めた。この映像は、私の実体験の記録です。
招待作品		神戸・姫路の旅 美濃島和男(日立市) 2016年1月、姉の13回忌の法事で関西に行ってきました。そしてこの機会に、阪神淡路大震災追悼式典、姫路城、明石海峡大橋など、姉との思い出の場所を訪れました。
休 憩		
奨励賞		小学生参加の鳥追い祭り 鈴木 隆(日立市) 常陸太田市の幸久小学校では、毎年地域ぐるみで鳥追いまつりをやってきました。ところが、148年の歴史ある小学校が閉校することになり、最後となった鳥追いまつりを記録しました。
奨励賞		元気にお米づくり 遊座 文一(北茨城市) 83歳の私は、副業として米づくりを行っています。いずれ、これも出来なくなると思い映像で残そうと、近くに住む80歳の友人にお願いし、米づくりの記録を作ってみました。
優賞		悲しみを乗り越えて！ひたち海浜公園物語 真弓 喜幸(日立市) 以前、海浜公園に行った時、この公園が元米軍の射撃場で、付近の住民が事故や騒音で苦しんできたことを知った。今は楽しい公園も悲しみの中からできたことを知ってほしい。
優賞		水戸偕楽園 陰の世界から陽の世界へ 西野 忠(水戸市) 水戸藩主・徳川斉昭公が開園した偕楽園。造園にあたって自ら表現しようとした「陰」から「陽」の世界への変化を斉昭公の想いの一端に触れながら映像にしてみました。
優賞		さようなら淡水魚館 吉澤 富夫(那珂市) 入館者の減少により閉館を迎える小さな水族館。閉館当日の館内の様子やスタッフの皆さんの映像をまとめて、小さな水族館の存在の証しとなればとの思いで記録しました。